

GALLERY

KOYANAGI

PRESS RELEASE

ギャラリー小柳 展覧会のご案内

HIROSHI SUGIMOTO | Past Presence

2020.3.14 (Sat) – 8.29 (Sat)



報道関係者各位

平素よりお世話になっております。

この度、ギャラリー小柳では3月14日（土）から8月29日（土）の会期で、杉本博司の個展『Past Presence』を開催いたします。ギャラリー小柳での個展は、2014年以来6年ぶりとなります。

本展では、国内初公開となる「Past Presence」シリーズから新作4点を展示いたします。本シリーズでは、杉本の長年のテーマである時間と歴史を20世紀のモダン・マスターズの作品群によって探求しています。ジャコメッティ、ブランクーシ、ピカソ、マグリットなど、それぞれの作品を写した写真は彼の「建築」シリーズと同様に、無限の二倍の焦点（twice as infinity）で撮影されています。意図的にぼかされた写真はアーティストの理想的なフォルムや、脳内で発想されたイメージそのままの姿を浮かび上がらせ、私たちはそのなかに無意識のうちに馴染みのあるかたちを見出そうとします。杉本の表現はこのように私たちの視覚的記憶を呼び起こし、イメージとはどのように記憶されているのか——イメージは正確な記憶として想起されるのか——杉本は見る者に作品を取り巻くディテールを取り除き、作品本来の概念や本質を顧みるよう投げかけます。

杉本博司は1948年東京生まれ。1970年渡米、1974年よりニューヨーク在住。活動分野は、写真、彫刻、インスタレーション、演劇、建築、造園、執筆、料理と多岐に渡り、世界のアートシーンにおいて地位を確立してきました。杉本のアートは歴史と存在の一過性をテーマとし、そこには経験主義と形而上学の知見をもって、西洋と東洋との狭間に観念の橋渡しをしようとする意図があり、時間の性質、人間の知覚、意識の起源を探求しています。世界的に高く評価されてきた作品は、メトロポリタン美術館（ニューヨーク）やポンピドゥ・センター（パリ）など世界有数の美術館に収蔵されています。代表作に「海景」、「劇場」、「建築」シリーズなど。2008年に建築設計事務所「新素材研究所」を設立、IZU PHOTO MUSEUM (2009)、MOA美術館改装（2017）などを手掛けています。2009年には公益財団法人小田原文化財団を設立し、2017年10月には構想から10年の歳月をかけ建設された文化施設「小田原文化財団 江之浦測候所」をオープンしました。

なお、細見美術館では4月4日（土）より「飄々表具 —杉本博司の表具表現世界—」、京都市京セラ美術館では5月26日（火）より「杉本博司 瑠璃の浄土」が開催中です。また、森美術館でのグループ展「STARS展：現代美術のスターたち——日本から世界へ」にも参加いたします。あわせてご高覧頂ければ幸いです。

資料および図版のご依頼は担当者までご連絡ください。ご掲載際にはご一報いただけますようお願い申し上げます。

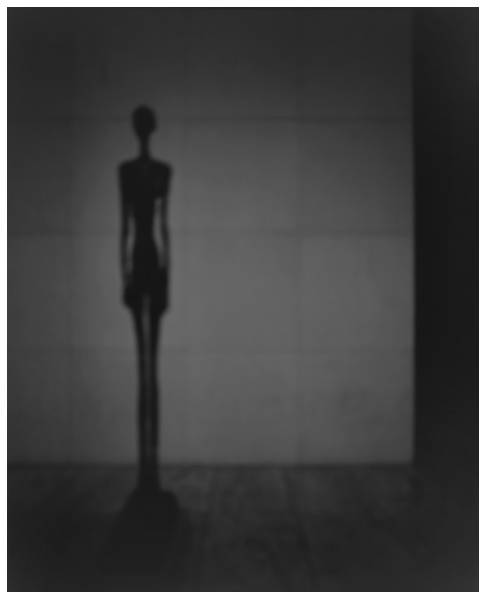
ギャラリー小柳

Past Presence

2013年、MoMAからの彫刻庭園撮影のコミッションが来た。フィリップ・ジョンソンの設計になるこの彫刻庭園には、モダニズム彫刻の名作が並べられている。私は「建築」シリーズのコンセプトに準拠して彫刻庭園の撮影に臨む事にした。数ある名彫刻の中で、まず私の眼を引いたのはジャコメッティの彫刻だった。その研ぎすまされたフォルムは、人間の肉体から肉の部分を削ぎ落して、さらに残るもののみを、極限の状態を表すことに成功しているように思われた。私は私の写真によるアプローチが、すでにジャコメッティの彫刻においては成就されているのではないのかと、思わざるを得なかった。私はこのジャコメッティの彫刻に二度カメラを向けてみた。昼日中の白日の時、そして夕暮れ時の薄明の時。私は能舞台上に現われる、二人の人物像を思った。能舞台では死者の魂が復活して現われる様を描く。前シテと呼ばれる前半では、土地の者が死者の変わり身となって、死に至った無念の情を述べる。そして後シテの後半では、その死者の亡霊が再び現われ、成仏できずにいる苦渋の舞を舞う、という設定だ。演劇のうちに死者の姿を垣間みる、そのリアリティーがどれほどのものであるかは、演技の迫真力とともに、鑑賞者の心眼の力量にも負う所が多い。私はジャコメッティを写しながら、能舞台を見る心持ちがした。能舞台では過去が今として (Past Presence) 蘇るからだ。私はこのジャコメッティからの啓示を得て、次々に他の作品群にも挑んでいった。

杉本博司

【広報用図版】



キャプション：

Hiroshi Sugimoto

Past Presence 001, Tall Figure, III, Alberto Giacometti

2013

gelatin silver print

クレジットライン：

© Hiroshi Sugimoto / Courtesy of Gallery Koyanagi,

depicted artwork © Succession Alberto Giacometti (Fondation Giacometti, Paris + ADAGP, Paris) 2020

【展覧会概要】

展覧会名：HIROSHI SUGIMOTO | Past Presence

会期：2020年3月14日（土）~~～4月25日（土）~~ *会期延長：～8月29日（土）

開廊時間：11:00～19:00

休廊日：日・月・祝祭日

会場：ギャラリー小柳 東京都中央区銀座 1-7-5 小柳ビル 9F

Tel: 03-3561-1896 Fax: 03-3563-3236

交通：東京メトロ有楽町線 銀座一丁目駅 7番出口より徒歩1分

丸ノ内線・銀座線・日比谷線 銀座駅 A-9出口より徒歩5分

URL：<http://www.gallerykoyanagi.com>

お問い合わせ：ギャラリー小柳 電話 03-3561-1896 | メールアドレス mail@gallerykoyanagi.com

*新型コロナウイルス感染症の影響により、今後の状況によっては、開催時期・内容等を変更する場合がございます。その際は、ギャラリー小柳のウェブサイトにてご案内いたします。

【杉本博司：展覧会情報】

展覧会名：杉本博司 瑠璃の浄土

会期：~~2020年4月4日（土）～6月14日（日）~~ *会期変更：2020年5月26日（火）～10月4日（日）

*当面のあいだ予約制・京都府在住者に限定。最新情報は公式ウェブサイトをご確認ください。

会場：京都市京セラ美術館 新館「東山キューブ」

京都市左京区岡崎円勝寺町 124

URL：<https://kyotocity-kyocera.museum>

展覧会名：飄々表具 —杉本博司の表具表現世界—

会期：2020年4月4日（土）~~～6月21日（日）~~ *会期延長：～9月6日（日）

*最新情報は公式ウェブサイトをご確認ください。

会場：細見美術館

京都市左京区岡崎最勝寺町 6-3

URL：<https://www.emuseum.or.jp/index.html>

展覧会名：STARS 展：現代美術のスターたち——日本から世界へ

会期：~~2020年4月23日（木）～9月6日（日）~~ *開幕延期

会場：森美術館

東京都港区六本木 6-10-1 六本木ヒルズ森タワー

URL：<https://www.mori.art.museum/jp/>

杉本博司

- 1948 東京生まれ
 1970 立教大学経済学部卒業
 1974 アートセンター・カレッジ・オブ・デザイン卒業
 1974- ニューヨーク在住

受賞歴

- 2018 ナショナル・アーツ・クラブ 名誉勲章[写真]部門、ニューヨーク
 2017 文化功労者 選出、東京
 王立写真協会賞、ロンドン
 2014 第1回イサム・ノグチ賞、ニューヨーク
 2013 フランス芸術文化勲章オフィシエ章、パリ
 2010 秋の紫綬褒章、東京
 2009 高松宮殿下記念世界文化賞[絵画]部門、東京
 2006 フォトエスパーニャ賞、マドリッド、スペイン
 2001 国際写真賞、ハッセルブラッド基金、ヨーテボリ、スウェーデン
 2000 名誉博士号、パーソンズ・スクール・オブ・デザイン、ニュースクール大学、ニューヨーク
 1999 グレン・ディンプレックス賞、アイルランド近代美術館、ダブリン
 第15回アニュアル・インフィニティ賞、国際写真センター、ニューヨーク
 1988 毎日芸術賞、東京
 1982 国立芸術基金(NEF)助成金、ワシントンD.C.
 1980 ジョン・サイモン・グッゲンハイム記念財団奨学金、ニューヨーク
 1977 C.A.P.S.奨学金、ニューヨーク

主な個展

- 2020 「飄々表具 —杉本博司の表具表現世界—」細見美術館(京都)
 「杉本博司 瑠璃の浄土」東山キューブ、京都市京セラ美術館(京都)
 「Past Presence」ギャラリー小柳(東京)
 2019 「Past Presence」マリアン・グットマン・ギャラリー(ニューヨーク)
 2018 「クアトロ・ラガッツィ 桃山の夢とまぼろし—杉本博司と天正少年使節が見たヨーロッパ」長崎県美術館
 (長崎)
 「SUGIMOTO VERSAILLES Surface of Revolution」トリアノン、ヴェルサイユ宮殿(フランス)
 「信長とクアトロ・ラガッツィ 桃山の夢と幻 + 杉本博司と天正少年使節が見たヨーロッパ」MOA 美術館
 (静岡)
 「杉本博司:Still Life」ベルギー王立美術館(ブリュッセル、ベルギー)
 2017 「杉本博司:天国の扉」ジャパン・ソサエティ(ニューヨーク)
 「LE NOTTI BIANCHE」サンドレット・レ・レバウデンゴ財団現代美術館(トリノ、イタリア)
 2016 「杉本博司 ロスト・ヒューマン」東京都写真美術館(東京)

- 2015 「趣味と芸術-味占郷」千葉市美術館(千葉)／細見美術館(京都/*2016)
「今昔三部作」千葉市美術館(千葉)／モスクワ・マルチメディア美術館(ロシア/*2016)／Musée des Beaux-Arts, Le Locle(ヌーシャテル、スイス/*2016)
- 2014 「ON THE BEACH」ギャラリー小柳(東京)
「ロスト・ヒューマン・ジェネティック・アーカイブ」パレ・ド・トーキョー(パリ、フランス)
「杉本博司:Past Tense」The J. Paul Getty Museum(ロサンゼルス、アメリカ)
- 2013 「杉本博司」サムスン美術館リウム(ソウル、韓国)
- 2012 「Five Elements」ギャラリー小柳(東京)
「杉本博司 ハダカから被服へ」原美術館(東京)
- 2011 「杉本博司 アートの起源 | 建築」丸亀市猪熊弦一郎現代美術館(香川)
- 2009 「杉本博司-光の自然」IZU PHOTO MUSEUM(静岡)
「放電場」ギャラリー小柳(東京)
- 2008 「歴史の歴史」金沢 21 世紀美術館(石川)／国立国際美術館(大阪/*2009)
- 2007 「漏光」ギャラリー小柳(東京)
「杉本博司」K20 ノルトライン=ヴェストファーレン州立美術館(デュッセルドルフ、ドイツ)／ノイエ・ナショナルギャラリー(ベルリン、ドイツ/*2008)
- 2006 「本歌取り」ギャラリー小柳(東京)
「観念の形 数理模型」アトリエ・ブランクーシ、ポンピドゥー・センター(パリ、フランス)
- 2005 「歴史の歴史」ジャパン・ソサエティ・ギャラリー(ニューヨーク、アメリカ)
「杉本博司:時間の終わり」森美術館(東京)／ハーシュホーン博物館と彫刻の庭(ワシントン D.C、アメリカ/*2006)
- 2004 「大ガラスが与えられたとせよ」カルティエ現代美術財団(パリ、フランス)
- 2003 「杉本博司」サーペンタイン・ギャラリーズ(ロンドン、イギリス)
「杉本博司:歴史の歴史」メゾンエルメス フォーラム(東京)
「ARCHITECTURE」ギャラリー小柳(東京)
「杉本博司:建築」シカゴ現代美術館(イリノイ州、アメリカ)
- 2001 「杉本博司:時の建築」ブレゲンツ美術館(オーストリア)
「Portraits」ギャラリー小柳(東京)
- 2000 「杉本博司」ルフィーノ・タマヨ美術館(メキシコシティ、メキシコ)
「杉本博司:建築シリーズ」サンフランシスコ近代美術館(カリフォルニア州、アメリカ)

- 「杉本博司:ポートレート」ドイツ・グッゲンハイム美術館(ベルリン、ドイツ)／ビルバオ・グッゲンハイム美術館(ビルバオ、スペイン)
- 1999 「陰翳礼讃」ギャラリー小柳(東京)
- 1998 「モダニズム」ギャラリー小柳(東京)
- 1997 「Twice as Infinity」ギャラリー小柳(東京)
- 1996 「杉本博司:写真」ストックホルム近代美術館(スウェーデン)
- 「Motion Picture」ギャラリー小柳(東京)
- 1995 「Still Life」ギャラリー小柳(東京)
- 「杉本博司」メロポリタン美術館(ニューヨーク、アメリカ)／ヒューストン・コンテンポラリー・アート・美術館(ヒューストン、アメリカ/*1996)／ハラ ミュージアム アーク(群馬/*1996)／アクロン美術館(オハイオ州、アメリカ/*1997)
- 「杉本博司:Time Exposed」クンストハレ・バーゼル(スイス)
- 1994 「杉本博司」ロサンゼルス現代美術館(カリフォルニア州、アメリカ)
- 1992 「杉本博司:Time Exposed」CAPC ボルドー現代美術館(フランス)
- 1991 「杉本博司:Time Exposed」佐賀町エキジビット・スペース／佐賀町 BIS、IBM 箱崎ビル前庭(東京)
- 1989 「近作展 6—杉本博司」国立国際美術館(大阪)
- 1988 「杉本博司」佐賀町エキジビット・スペース／ツァイト・フォト・サロン(東京)
- 「杉本博司:ジオラマ、劇場、海景」ソナバンド・ギャラリー(ニューヨーク、アメリカ)
- 1977 「杉本博司」南画廊(東京)

主なグループ展

- 2020 「STARS 展:現代美術のスターたち—日本から世界へ」森美術館(東京)
- 2017 「不在を作っているもの」ハーシュホーン美術館・彫刻庭園(ワシントン D.C.、アメリカ)
- 2015 「シンプルなかたち展:美はどこからくるのか」森美術館(東京)
- 2014 「シンプルなかたち」ポンピドゥー・センター・メッス(フランス)
- 2012 「アジアの亡霊」サンフランシスコ・アジア美術館(カリフォルニア州、アメリカ)
- 2011 横浜トリエンナーレ 2011(神奈川)
- 2010 第 17 回シドニービエンナーレ(オーストラリア)
- 「セクシュアリティと超越」ピンチェック・アートセンター(キエフ、ウクライナ)
- 2009 「マッピング・ザ・スタジオ」プンタ・デラ・ドガーナ(ベネチア、イタリア)

- 「第三の心:アメリカ人アーティストが見つめたアジア、1860-1989」ソロモン・R・グッゲンハイム美術館
(ニューヨーク、アメリカ)
- 2008 「リアリティチェック:現代写真における真実と幻想」メトロポリタン美術館(ニューヨーク、アメリカ)
「写真についての写真:メディアムに写り込むもの 1960年より」メトロポリタン美術館(ニューヨーク、アメリカ)
- 2004 「単数形(時々反復):1951年から現在までのアート」グッゲンハイム美術館(ニューヨーク、アメリカ)
- 2003 「ハピネス:アートにみる幸福への鍵」森美術館(東京)
「日本写真の歴史」ヒューストン美術館(テキサス州、アメリカ) / クリーヴランド美術館(オハイオ州、アメリカ)
- 2002 「ムーヴィング・ピクチャーズ」ソロモン・R・グッゲンハイム美術館(ニューヨーク、アメリカ)
- 2001 横浜トリエンナーレ 2001(神奈川)
- 2000 「ゲンダイ:日本現代美術—身体と空間の間」ウジャドゥスキー城現代美術センター(ワルシャワ、ポーランド)
「拡張する地平線 ホイットニー美術館収蔵品に見る風景写真」ホイットニー美術館フィリップモリス分館(ニューヨーク、アメリカ)
- 1999 「美に関して:20世紀末の視点」ハーシュホーン美術館・彫刻庭園(ワシントン D.C.、アメリカ)
第3回アジア・パシフィック・トリエンナーレ(ブリスベン、オーストラリア)
「ミュージアムとしての美術館」ニューヨーク近代美術館(ニューヨーク、アメリカ)
- 1998 「今世紀の終わりに:建築の100年」東京都現代美術館(東京) / ロサンゼルス現代美術館(カリフォルニア州、アメリカ)
- 1997 「In Visible Light:芸術、科学および日常における写真と分類」オックスフォード近代美術館(イギリス)
- 1996 第10回シドニービエンナーレ(オーストラリア)
「プロスペクト 96:現代美術における写真」フランクフルト・クンストフェライン、シルン・クンストフェライン(ドイツ)
「夜に」カルティエ現代美術財団(パリ、フランス)
- 1995 「アルバム:ボイマンズ=ファン・ベーニンゲン美術館写真コレクション」ボイマンズ=ファン・ベーニンゲン美術館(ロッテルダム、オランダ)
「日本の現代美術 1985—1995」東京都現代美術館(東京)
- 1994 「空間・時間・記憶:Photography and Beyond in Japan」原美術館(東京)

GALLERY KOYANAGI

- 「戦後日本の前衛美術展:空へ叫び」横浜美術館(神奈川県)／グッゲンハイム美術館ソーホー(ニューヨーク、アメリカ/*1995)／サンフランシスコ近代美術館(サンフランシスコ、アメリカ/*1995)
- 1993 「21世紀:バラケルスと未来に向って」クストハレ・バーゼル(スイス)
- 1992 「隠されたリフレクション」イスラエル博物館(エルサレム、イスラエル)
- 1991 「カーネギー・インターナショナル 1991」カーネギー美術館(ペンシルバニア州、アメリカ)
- 「キャビネット・オブ・サイنز:ポストモダン日本の現代美術」テート・ギャラリー・リバプール(イギリス)
- 1990 「80年代の日本美術」フランクフルト・クストフェライン(ドイツ)
- 「写真の過去と現在」東京国立近代美術館(東京)
- 1987 アメリカにおける日本現代美術 (1):アリタ、ナカガワ、スギモト」ジャパン・ソサエティー・ギャラリー(ニューヨーク、アメリカ)
- 1978 「新蔵作品展」ニューヨーク近代美術館(アメリカ)